

地 域 協 力

釧路工業技術センター

センター長 東 藤 勇

1. はじめに

釧路根室地域の発展、繁栄を考えると、これまでその発展を支えてきた石炭産業、水産業、紙・パルプの製紙業が産業構造の変化と200海里問題などの影響を大きく受け、さらに太平洋炭鉱が閉山するなど、厳しさが増す中で、従来の基幹産業に依存しただけの取組みを続けていたのでは、この地域は衰退するばかりであると思われる。地域産業の未来を切り拓くためには、これまでとはその進むべき方向を大きく変えなければいけない状況にある。地域の工業界は、こうした社会経済情勢の変化を早くから察知し、従来の基幹産業への依存体質から早急に脱却して、ニーズの多様化・個性化(安心安全など)・高度化に対応し、且つ地域環境の特性を活用した、新産業創出による地域産業再生の取組みを進めるべきであるとして、釧路工業技術センターの設置を目指した活動を進め、その念願が叶い、昨年10月、当センターが開設した。

2. 地域のニーズとその対応

地域産業界の各企業は、新しいシーズを模索しつつ、産業化につなげる努力を続けており、当センターには、オープン以来8ヶ月で150件を超える相談案件が寄せられている。これらの案件に対する、早急な実りの有る対応を可能とするためには、何と言っても地元高等教育機関の強力な支援が必要である。現在、釧路工業高等専門学校地域共同テクノセンターを中心に力強い支援をいただいているが、学生に対する講義・教育指導に重点を置かざるを得ず、また大学の教官に比べ講義の担当時間も2倍以上あり、十分な対応をお願いし難い状況にある。

地域貢献への協力をお願いするには、懸案事項の解決への道筋の簡易化を行なうことが必要である。そのために、当センター職員が懸案事項の正確な把握と釧路高専教官の専門学問領域を正確に理解し、持ち込まれた課題解決に最もふさわしい先生に、紹介できるようにする取組みを開始している。

他方、教官側では積極的に受入れる姿勢が大切である。教師という職業柄、間違いや不可能は許されないと、最初から受入れ拒否を決め込んで居る方も有ろうかと思われる。新製品の開発や地球上で誰も成功していないことを成功に導くには、長時間を掛けて、これまでの技術の応用で可能になるものや、新しい技術が発見されて初めて可能になるもの、ほとんど不可能な物まで色々あろうと思う。高等教育機関への地域の期待は、これらの問題に如何に真剣に挑戦してもらえるかであり、夢を共有して努力する姿勢を見せることだと思う。挑戦して、使える技術である事を確認できると、学生の心に火をつける教育を可能にすると思う。

3. 地域環境の活用

釧路根室地域は、寒冷な気候(夏でも冷涼)で、且つ冬期間の好天による日照時間が日本有数を誇る、国内ではほかに例の無い地域です。即ち、冷涼である事は、食品に付着する細菌が繁殖し難い環境を提供し、冷蔵庫と同じ温度環境が自然環境を利用することで安価に提供することができる。しかも、殺菌性の豊かな太陽光が冬期間燦々と降り注ぐ地域である。この地域の環境、特性をフルに活用し、他の地域には真似の出来ない、産業構築を目指した取組みが可能である。当地域は、日本の「食」を支える水産・酪農地帯であり、地域の環境を生かした「食」産業を支える工業技術は、この地域が発展し続ける原動力となる。この環境を活用するための工業技術の研究開発は、当地域における唯一の工学系高等教育機関である釧路工業高等専門学校との協力連携で、はじめて可能になる。

4. 終わりに

釧路根室地域の工学系の高等教育機関としては釧路工業高等専門学校が唯一であり、同校に対す期待は非常に大きい。真に地域に役立つサポート機関として、企業からの要望と期待に応えるため、釧路工業高等専門学校と釧路工業技術センターは密接な連携機関であり続ける。また、釧路高専には一日も早く専攻科が設置されます事を強く切望する。地域とより深い連携ができ、地域から地球へ、本当に役立つ高等教育機関にして頂きたいと願っている。